

『ソラモシステム』

【開発の背景・従来の課題】

日本の中山間地域や地方都市では、公共交通の衰退により外出が難しくなっています。補助金に頼るだけでは限界があるため、住民主体の移動手段づくりや既存交通のDX化など、地域資源を活かした新しい交通システムが望まれています。

【開発経緯・開発体制】

本学研究者（未来社会創造機構 森川高行教授）は、名古屋大学で交通行動分析や交通需要予測を中心に研究を行い、人の行動データに基づいた交通政策や都市交通システムの設計に取り組んできました。2015年にスタートした国立研究開発法人科学技術振興機構が実施したセンター・オブ・イノベーション（COI）プログラムにおいて、交通不便地域における移動を支援するため、複数の交通サービスを一体的に管理・提供する地域交通プラットフォームである『ソラモシステム』を開発しました。

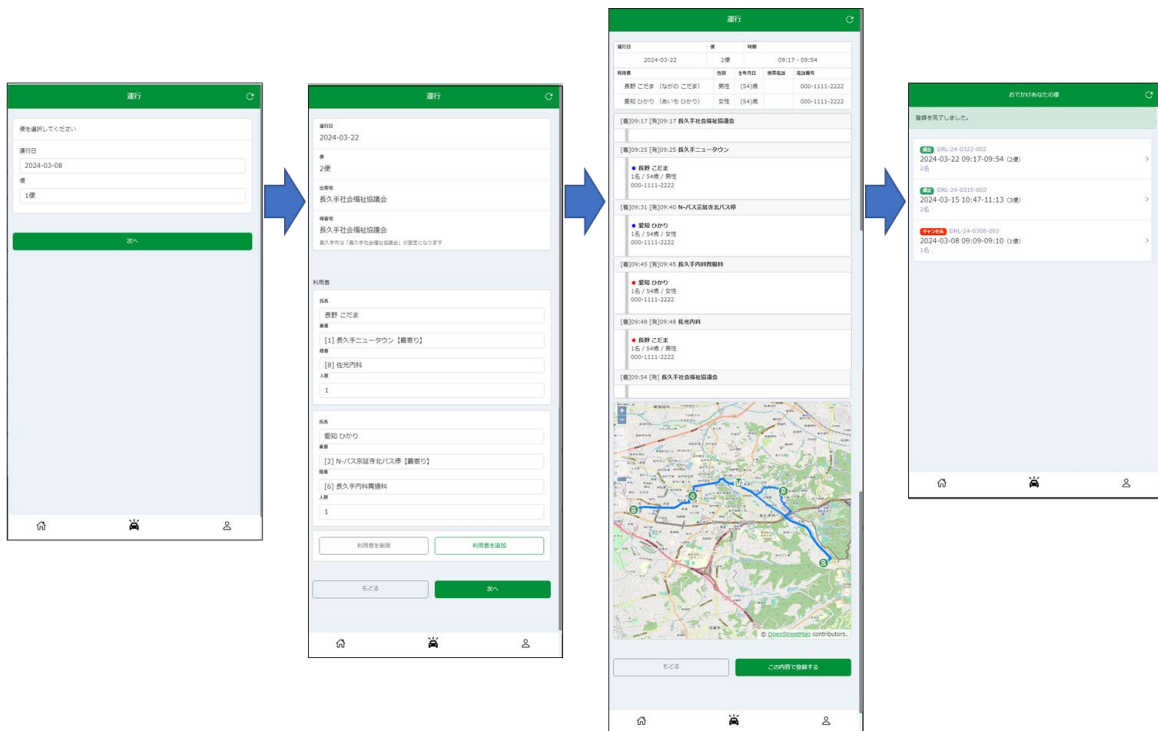
連携自治体と密に協働し、地域住民を協力者として信頼関係を構築しながら、単なる新規交通システムの導入ではなく、その地域に暮らす人々の生活に焦点を当て、無駄なコストを削減し、補助金に依存しない自立的な取組みを構築する手法として『コーポラティブ交通マネジメント（通称：CTM）』を提案し、研究者自ら設立したベンチャーにおいて社会実装を行っています。

【実用化した技術内容と社会的インパクト】

本取組みの最大の特徴は、『ソラモシステム』というハードと、これを運用する手法である『CTM』を同じタイミングで地域に導入することで、大学やベンチャーの支援が終わった後も、地域住民自らの手で地域交通の課題の解決を可能とするところにあります。（イメージ図1）また、住民は、移動の利便性向上のみならず、地域の持続性に寄与することで、尊厳ある生活を送ることが可能となり、これをモチベーションとすることで、持続性の確保を目指しています。



【図1】ソラモシシステムの導入とCTMの実装イメージ



【図2】ソラモシシステム ボランティア輸送予約システム画面例

【関連サイト（販売カタログ等の参考情報）】

<https://life-and-mobility.com/>

【詳細情報のお問い合わせ先】

国立大学法人東海国立大学機構 名古屋大学

学術研究・産学官連携推進本部 知財・技術移転部門

TEL : 052-788-6003

E-mail : chizai@t.mail.nagoya-u.ac.jp